

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870900150
法人名	医療法人 康仁会
事業所名	グループホーム さわらび
所在地	愛媛県四国中央市三島金子2-2079-8
自己評価作成日	平成22年6月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年7月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体病院の敷地内にあるホームの為、24時間体制でのサポートが可能であり、健康管理ができる。週3回母体病院のリハビリが受ける事ができる。同系列の病院・グループホーム・ケアハウス・老人保健施設・デイサービスと連携が取れており合同で外出など行う事ができている。四国中央市で最初にできたグループホームであり、その経験を活かしたケアに努め入居者が活気があり笑顔の絶えない生活を援助できる様に職員一同、日々精進している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同敷地内に病院・福祉施設・地域保健支援事業等があり、関連施設の一部としてグループホームがある。ホームが開設して11年、管理者が交代して4年が経過し、利用者は落ち着いた生活をしている。一人ひとりの生活パターンを守りながら、基本的な生活支援ができています(埃の無い清潔な環境・安全な履物・季節が味わる草花・本人と向い合う姿勢等)。今は入居者の介護度が低いが、医療機関との関連が取れており、安心感がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム さわらび
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	尾崎 慎也
評価完了日	平成22年6月12日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「楽しく笑顔で」を理念に職員一同一致団結し、入居者の援助に努めている。</p> <p>(外部評価) 今年度、職員間で話し合っって理念の見直しを行ったことにより、理念を身近なものとして感じ実践に向けて取り組んでいる。また、見やすい場所にも掲示し、いつでも振り返りができるようにしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ホーム新聞を地域に配布している。運営推進会議時に地域の自治会長・民生委員の方に参加して頂いている。その他、定期的に地域のゴミ拾いをしたり、地域との交流を図る為、餅つき大会などを開催したり地域との交流に努めている。</p> <p>(外部評価) 毎月「さわらび新聞」を発行し、ホームの行事等記載し地域の一部に発信している。法人全体の行事に地域の方々が参加協力してくれている。病院は災害時の協力施設となっている。地域の方々と関わりがある時は、グループホームの正しい理解をしていただく努力もしている。</p>	法人全体での地域への関わりはあるが、ホームの認知度はまだ充分とは言えない。入居者のプライバシーに配慮しながら、さわらび新聞の配布や行事での交流を機会にさらに関わりが広がることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) ホーム新聞に入居者の日常生活の様子など書き、地域の方々に理解して頂いている。他定期的に、イベントも開催している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 地域の方の意見や提案の内容を記録・検討し、サービス向上を行っている。地域密着にも努めている。その他、火災訓練を地域の方と一緒にいたり、ホーム内のヒヤリ・ハット報告など行っている。	
			(外部評価) 会議のメンバーは市から固定するようにと指導があり、市・地域の役員・同法人のグループホームの管理者・さわらび職員・本人や家族等参加しているが、家族の参加が少ない。開催の案内や前会議の確認や報告はされており、意見をサービスに繋げている。	議題によっては関連する人を、オブザーバー等で参加してもらって、議題をより深めてほしい。また、議事録をより充実し、関連部門等の報告や連絡に利用する等の試みを検討してほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に地域包括センター職員の方が参加しホーム内の様子やヒヤリハットなど報告している。その他、月1回ふれあい相談委員の方が訪問して頂き、意見交換など相談してもらっている。	
			(外部評価) 手続きや指導・報告で市の担当者や運営推進会議に参加の包括支援センター職員等と連携している。また、ふれあい相談員の定期的（月1回）な訪問があり意見交換や相談等してもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 以前は玄関に施錠を行っていたが、現在は玄関にブザーを使用するなど工夫をしている。その他、身体拘束の勉強会も行い身体拘束の無い様に努めている。身体拘束排除マニュアルも作成している。	
			(外部評価) 玄関は夜間以外は施錠せず、風鈴やブザーの設置で出入を把握している。勉強会やマニュアルの作成等で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を行っている。全職員が理解できている。家族・本人に対しては、事前調査時に十分観察を行う。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 勉強会に参加し参加した職員が他の職員に勉強会を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 介護保険の改正・新しい加算が増えた時など、家族会を開き書面を作成し、説明し理解して頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会開催時に食事会を開き、意見の出やすい環境作りに努めている。その他、入居時に「苦情受付の窓口」の資料を渡し説明を行っている。	
			(外部評価) 家族会を年1回開催している。意見が出やすい雰囲気作りにも配慮している。また、面会等で家族が来所した際にも話がしやすいように気をつけている。利用開始時、苦情受付窓口の説明もしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月1回、定期的に職員全員参加しスタッフ会を開催し、入居者・業務内容の意見交換を行っている。その他管理者も職員と同じ勤務体制をとっており、常に話しやすい関係づくりができています。</p> <p>(外部評価) 定期的に月1回のスタッフ会議で、職員は利用者のことや業務について意見や提案を積極的に出している。管理者は職員と同じ勤務に組み込まれているため、職員との距離が近く意見のやり取りがしやすい立場にある。法人の責任者の会議に管理者が参加して意見を反映している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員は、半年に1度自己評価し代表者が評価している。管理者は、職員からの意見等を聞き必要であれば代表者に相談を行っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) グループホームでの勉強会、同系列の病院内の勉強会にも参加している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 同系列のグループホームの運営推進会議にも参加したり合同で外出を行っている。 愛媛県グループホーム協議会に加入するなど、他のグループホームとの交流も今後行っていく予定</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前に、本人から話しを聞き、入居にあたり本人が不安に思っている事や要望など聞き、ケアプランに取り入れ本人が安心して生活できる様に努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に、入居にあたって不安な点・要求など聞き、 ケアプランに取り入れている。家族の方が安心して入 居できる様に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 入居時に本人・家族と話しをし、必要に応じた対応を 行う。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 入居者一人ひとり役割を持ってもらい、入居者・職員 の関係ではなく家族的な関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、会話のスペースを提供したり、月1回「本人 さん新聞」を作成し本人の日頃の様子など記事にし家 族に送付している。その他、家族が希望する生活を聞 き、ケアプランを作成している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 入居前に本人の生活暦・以前していた仕事・得意な事 を聞き本人らしい生活ができる様に努めている。その 他、家族・知人の協力の元、外出・外泊の援助を行い 人との関わりを大切にしている。 (外部評価) 利用者本人や家族から生活歴や思いを聞き取り、馴染 みの人や場所の情報を収集し、家族や知人の協力を得 ながら外出や外泊等をして、墓参りや行きつけの理美 容等に行く等の支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士の人間関係を大切にし、入居者同士が助け合いができています。入居者同士のトラブル時には、職員が素早く対応している。その他、レク・外泊等の声掛けを行い楽しく過ごせる様に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他の施設等に移る時は、ホームでの生活が一目で解る「個人記録」を渡し以後の生活をしやすい様に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプラン作成時、本人の意向をと入れている。その他、日々の生活の中でも本人と寄り添い本人のできる事、したい事を発見でき喜びを共有できる様、努めている。	
			(外部評価) 思いや意向を表現できる利用者が多く、生活の中で希望や思いを聞き取り把握している。聞き取りが難しい時は利用者本位になるように職員間で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に「個人記録」を本人・家族に聞き生活暦等記入し職員全員理解し情報も共有でき同じ目標に向かったケアに努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で、一人ひとりの生活ペースを観察し個々に、できる事・やりたい事を発見し、カンファレンス等で話し合い統一したケアに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアプラン作成時には、本人・家族の意向を取り入れカンファレンスで職員の意見も取り入れ作成をし、本人主体のプラン作成に努めている。	
			(外部評価) 利用者がより良く暮らすための課題や、家族の意見や要望について、担当職員が主となって介護計画を立案し全職員でカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。また、日々の介護計画の実践状況をチェックして、通常は3か月毎に、状態の変化が生じた時はその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録の中で、本人の訴えや様子・プラン内容等記録し出勤していない職員には、記録以外に申し送りで情報を共有している。その他、重要な事は職員の連絡ノートでも共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 入居者の希望や職員の提案・同系列のグループホームの方と、季節感のある外出・外食をしたり楽しみのある生活に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 市が主催している音楽会や美術展に参加したり、地域の方・消防と一緒に消防訓練を行った活動をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 母体病院の受診の他、本人・家族が希望した場合、他 の病院の受診は家族の協力の元、行っている。</p> <p>(外部評価) 受診は利用者、家族の了解の元に、同法人の医師にか かっている。かかりつけの病院にない診療科は家族の 協力を得て、専門医を受診している。情報等の伝達は スムーズに行われている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 母体病院の看護師と医療連携を行っている。夜間、入 居者が体調不良があれば連携看護師に連絡をし指示の 元支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 母体病院に入院の際には医師・看護師と連携を取り情 報交換を行っている。その他の病院に入院時には、家 族・病院に定期的に連絡を取って対応している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 看取りの説明は入居前の契約時に行っている。看取り 開始にあたっては、医師・看護師に説明を受け職員 は、情報を共有しケアに努める。定期的に家族・医師 に今後の方針の相談を行う。</p> <p>(外部評価) 看取りのマニュアルは作成しているが、看取りの経験 はない。利用者には利用開始時に説明をしているが、 介護度が軽い利用者が多く具体的な検討はまだ進んで いない。</p>	<p>医師を交えて利用者や家族と話し合いながらホームで できること、できないこと等具体的な方針を共有する ことが望まれる。職員は状態に対応できる知識や技術 を習得するために、学ぶ機会を持つことが求められる。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変・事故発生時には、母体病院と連携を取っており、素早く対応できる。マニュアルも作成しており、全職員が理解でき対応している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 今年、スプリンクラーも設置し地域・消防署の方も交え年2回消防訓練を行っている。その他、災害時にすぐ持っている災害用バック・カルテを持ち出す事になっている。 (外部評価) 防災・避難訓練を夜間の想定もしながら定期的実施している。ホーム内の誘導路の確認もできている。また、スプリンクラーが新たに設置され、設備面でも充実している。訓練は敷地内にある法人の他の事業所や地域の方の参加を得て実施され協力体制が取れている。	訓練の改善点を検討し、安全な生活を確保し続ける取り組みを続けてほしい。また、災害時の備蓄用の飲料水を始め、災害避難時の必要物品や持ち出しリュック等も検討してほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員・入居者家族にプライバシー確保のため書面にサインをもらっている。その他、声掛けには本人の気持ちを大切に、書類記載も入居者の名前もイニシャルで記載するなど考慮している。 (外部評価) 本人を尊重し、傷付けないような声かけや、さりげない態度で接するように気をつけている。利用者同士のトラブルの対応等、個々の利用者を理解しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活の中で、一人ひとりの表情の変化の観察や訴えの傾聴に努めている。職員も申し送り等で情報を共有しその人に合ったケアに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者の希望があれば、近くのスーパーや同敷地内病院の売店に買い物に出かけたりしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望に添って化粧・ネイルの援助を行っている。散髪・パーマは家族が馴染みのパーマ屋に連れて行ったり、近くのパーマ屋に行ったり本人が希望するオシャレを楽しめる様に努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 基本的に昼・夜食は同敷地内の病院から食事を貰っている。盛り付け・食事の準備は入居者・職員で行っている。朝食・イベント時には、入居者・職員で作っている。 (外部評価) 昼夕の食事はホームで主食を炊き、副食は病院の給食を利用している。利用者は職員と一緒に盛り付けや後片付けをしている。ほとんどの利用者が自力摂取することができる。職員は持参の弁当を一緒にまたは、後で食べている。朝食は食材が届き、ホーム内で調理している。	利用者と同じ食事をとることで気づくこともあり、ホームの視点で検食し利用者の支援に役立てる等の工夫を期待したい。また、食事介助が必要となった時、利用者の間に職員が入ることも考慮し、席配置等も今後検討してほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 敷地内病院の管理栄養士の元、その人に合った食事を提供している。その他、本人の苦手な物は事前に聞き皆で楽しく食事できる様に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアの声掛けを行っており、自力で行えない方には、介助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ほとんどの入居者が自立しており、個人の自尊心に配慮している。その他、転倒の危険性のある方には、夜間ポータブルトイレを使用している。	
			(外部評価) 自立している人が多いため必要に応じてチェックを行っている。夜間対応が必要な利用者は、利用者や家族と相談して紙パンツを使用したり、ポータブルトイレを使用したりしている。声かけについてはパターンや習慣を大切にして支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘対策として、水分補給・食事を工夫している。 (乳製品など) 本人の排泄パターンに合わせ医師と相談し、調整剤等で調整している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本、夜勤時以外、入浴は自由である。本人の希望に添える様に努めている。	
			(外部評価) 夜間の一人勤務の時間帯は対応が難しいが、本人の希望に添って支援している。職員は利用者が少しでもゆったり楽しく入浴できるように、個々に応じた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 自由に居室・食堂と本人のペースに合った生活を援助に努めている。職員は、入居者の行動に注意し本人らしく生活できる様になっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 受診等で薬の変更がある際には、受診記録に記入・申し送り・薬記載版で確認し全職員が周知できる様に工夫している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居の際に本人の趣味・特技・以前の仕事など聞き、日々の生活観察を行い、本人と相談しながら役割に励んでもらえる様に努めている。職員は、日々観察を続け本人らしく生活でき新しい役割が持てる様に努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 定期的な外出を行っている。近隣に商店がない為、母体の病院の売店へ行ったり、希望に合わせて車でスーパーに買い物に出掛けたり季節の花を見に行ったり、外食に出掛けたりしている。同系列のグループホームの入居者と交流もあり合同で外出も行っている。 (外部評価) 利用者の希望する外出は、家族の協力を得ながら仏事や理美容等に行けるよう支援している。散歩や病院の売店へは日常的に出かけている。その他、定期的に希望を聞き食事や観光季節の行事、買い物に出かけている。また、同法人の他のグループホームと共同で出掛け交流することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で金銭を管理されている方も数名あり。スーパーでの買い物時、会計も自分で行っている。その他、預かり金はその人に応じ家族と相談し預かっている。預かり帳もあり管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ホームの電話で家族と電話をしている。他県に暮らす家族に定期的に手紙を書いている方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居間には畳のスペースがあり冬にはコタツをしている。居間のスペースが狭く、くつろぐスペースが少ないが、玄関前には、テラスがあり日向ごっこや天気の良い日には外で食事を行ったりと心地の良い季節を感じられる様に努めている。	
			(外部評価) 玄関の横にテラスがあり、天気の良い日はそこで食事をすることもある。トイレ・浴室・手洗いは使いやすく、清潔で臭いも無い。居間には畳みのコーナーがあり、団欒の場となっている。ホームの周囲には花が植えられホーム内も生花が所々に飾られ季節を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居間には、スペース的な問題がありスペース確保は難しいがローカに椅子を置いたり、2階ロビーにテレビを設置したり、玄関先にテラスを設けるなど工夫をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居前に本人の馴染みな物を持ってきてもらう様に説明をしている。居室にテレビの持ち込みをしている方や畳を敷いている方もいる。	
			(外部評価) 家族の協力を得ながら馴染みのものが置かれ、希望で畳を敷くこともできる。毎朝、居室や廊下等の掃除をする利用者もいる。季節の衣類等の交換は家族の協力を得たり、本人と一緒にいたり個々に支援している。家族の宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 入居者一人ひとりが安全に生活できる様に工夫している。夜間歩行不安定な方にはポータブルトイレを設置したり、自分の居室がわかりやすくする為、居室ドアに名前やマークを付けたりと快適に生活できる様に努めている。	